

# 登山月報

平成24年度全国山岳遭難対策協議会開催される	1
平成24年度遭難対策委員会研修会兼総会を開催	2
平成24年度指導委員総会・研修会	3
UAAA 理事会報告	4
第45回 Mountain World	6
日本の山岳切手シリーズ®	7
自然保護常任委員研修報告	7
「資源回収でつなぐ日本百名山めぐりプロジェクト」を後援《報告》	8
JMA、寄贈図書、編集後記	9

## 平成24年度全国山岳遭難対策協議会開催される

平成24年度全国山岳遭難対策協議会が7月11日(水)に霞ヶ関の文部科学省講堂で開催され、例年通り、全国から警察、消防、山岳関係者等300名が参加した。

主催者を代表して文部科学省の嶋倉生涯スポーツ課長の挨拶のあと、日程に沿って進められた。

報告1は、「平成23年度中における山岳遭難の概況」が警察庁の大林昌弘地域課長補佐より報告された。平成23年度の発生件数は1,830件(前年対比-112件)、遭難者数は2,204人(前年対比-192人)、死者・行方不明者275人(前年対比-19)と、昭和36年以降、年々増加していた指標がそろって減少したが、発生件数、遭難者数は過去2番目の高い数字である。中高年者の発生状況は遭難者数で全体の77.0%、死者・不明者は91.3%と傾向通り高い比率で、態様別では道迷い917人(41.6%)、滑落367人(16.7%)、転倒317人(14.4%)となっている。発生件数は減少しているが無事救出も1,110人(前年対比-160人)と減少している点の特徴である。大震災による自粛もあったので今後も減少するかは注目する必要がある。

報告2は、「消防防災ヘリコプターによる山岳救助のあり方に関する検討会の概要報告」と題して消防庁国民保護・防災部防災課広域応援室の森田壽彦航空専門官が報告された。岐阜、埼玉での事故を受けての検討会の報告であったが、現行の法律などの制約があり、抜本的な対策は難しそうである。

報告3は「山岳遭難救助に対する兵庫県の取組みについて」と題して兵庫県消防防災航空隊・神戸市消防局航空機動隊東谷浩二航空救助係長が報告された。兵庫県と神戸市は全国で最初に共同運航を開始しており、山岳遭難の救助や防止にNコードを活用する事例などが報告された。

講義1は、「日本における国際認定山岳医制度について」と題して日本登山医学会の増山茂認定山岳医委

員会会長が制度の概要を報告され、続いて英国国際山岳医で北海道警察山岳遭難救助アドバイザーである大城和恵さんが「山岳救助への医療導入の試み」と題し講義された。内容的には山岳での応急手当に医療を導入することと、山岳での応急手当の新しい指針を作りたいという話で、3SABCDEの実際や、都市においては心臓麻痺などの急性の心停止が多いので血液中に酸素があるので胸骨圧迫のみという指針になったが、山岳では酸素不足になっている場合が多いので人工呼吸の併用が必要であるという指摘であり、山岳での新しい指針の普及の必要性を熱く語られた。登山界をあげて協力していく必要がある。

講義2は、「那須山岳救助隊での遭難防止への取り組み」と題して那須山岳救助隊の渡部逸郎副隊長が講義された。那須の遭難の傾向分析から対策すべき要点を道迷いと転倒にしばり、登山道の現状を調べ、現在地番号の設置、登山道の石並べ、ロープ張りによる一本化、道標への補助プレートの設置、地形図の登山道の間違いの修正などの具体的な対策を地道に実施した結果、道迷い遭難を減らすことができたという報告である。こうした具体的な対策情報の共有が減遭難につながるの、非常に良い報告であった。最後に「山岳遭難事故防止のために」というアピールを採択し、神崎日山協会長の挨拶で閉会した。

(遭難対策委員長 西内 博)



全山遭の発表者

## 平成24年度遭難対策委員会研修会兼総会を開催

遭難対策委員会の平成24年度の研修会と総会が茨城岳連の協力で平成24年6月23日から24日にかけてホテルレイクサイドつくばで開催された。23日は研修会で全体進行は石田常任委員が行った。最初に青山遭難対策副委員長より「遭対活動における倫理・法律の役割についてー自己責任を考えるー」として基調報告があった。青山副委員長の報告では遭対活動は、倫理規範、法的解釈、山岳保険、遭難事故の調査分析などから遭難対策(減遭難)が行われるべきで、遭難対策はさらに登山技術、搜索技術、救助技術と遭難対策活動に分かれるが、現在は救助技術を中心にごく一部しか取り組まれておらず遭難対策活動は実践されていないのが実状で、まず倫理規範、法的解釈をきっちり行い減遭難に取り組むべきと言う内容であった。続いて日本山岳文化学会員の太田忠行氏から「登山における自己責任」についての基調講演があり、法的責任について判例もまじえた総合的な話であった。その後3つの分科会に分かれ登山における自己責任について討議した。

総会は24日に行われ岩切常任委員が全体進行を行った。西内茨城岳連副会長兼遭難対策委員長長の挨拶で開会し、平成23年度事業報告、平成24年度事業計画の報告のあと、最初に町田副委員長から遭難対策常任委員会を実施したロープ強度試験報告の報告があった。今後も実使用に即した強度試験継続する。

引き続き青山副委員長よりUIAA登山委員会の報告とIMSARの報告があった。UIAA報告では国際山岳事故調査が日本の提案で動き出したとの報告があった。IMSARの報告では山岳事故のリスク分析手法がまとまりつつあること、第三者事故調査法の研究開発の必要性和進捗状況について報告があった。その後、第9回山岳事故調査報告があった。大きな傾向



は変わらないが、事故発生率はともかく事故件数で日山協が労山を初めて上回った。事故の補償範囲の拡大などの影響もあるが、組織内で事故がどんどん増加していることに全く危機意識がないことが問題である。また、事故の多い11時、14時の対策を考える上で重要と思われる滑落転倒曲線が得られた。11時は滑落、14時は転倒が多く、滑落の方が重大事故が多いので件数は14時が多いが11時の方がリスクは高くなる。この時間帯での注意喚起は減遭難に有効であると思われる。最後に研究協議について各班より発表があり、情報の共有化が図られた。自己責任という言葉の定義はさまざまで共通の認識はなく、事故は自己責任であるとした段階でさまざまな解釈になってしまい登山は自己責任と言っていることが何の事故対策にもなっていないことが良くわかった。まず、日山協の中で、自己責任の定義を固め、それはすなわち倫理規範、法的解釈を固めることが必要である。今年の会場もゆったりした会議室で、天然温泉と飲み放題つき食事で、十分討議することができ、有意義な研修会、総会となった。地元の茨城岳連に感謝したい。

### 【総会出席者】

西内博、町田幸男、青山千彰、永井伸幸、渡部逸郎、瀬藤武、恵秀彦、渡邊輝男、岩切貴乃、小池正器、中丸忠男、近藤孝久、大沼正博、石田英行、町田雅美、一本松文夫、清水学(以上常任委員)、佐藤誠(岩手)、阿曾清浩(山形)、小暮文彦(群馬)、須賀邦雄(千葉)、中澤弘雄(山梨)、井春文(新潟)、村田健治(長野)、森田伸彦(石川)、帰山孝行(福井)、堀内修(静岡)、鈴木康夫(愛知)、小古真也(三重)、廣瀬修二(岐阜)、竹村喜一郎(滋賀)、香田隆史(鳥取)、持田寿(島根)、古川雅之(広島)、山木隆夫(愛媛)、戸高和義(福岡)、樋ノ口正光(鹿児島) (遭難対策委員長 西内博)



# 平成24年度指導委員総会・研修会

6月9日(土)～10日(日)の両日、指導委員会の研修会と総会が東京晴海の東京会員会館で開催された。参加者は42都道府県から49名、指導常任委員12名、日山協1名の総勢62名。

先ず日山協の八木原 圀明副会長の挨拶があり、続いて永井指導委員長挨拶のあと、第1日目の研修に入った。



## 研修会(6月9日)

### 1. 公認スポーツ指導者の資格更新に伴う義務研修全体システムについて

義務研修予定の入力・結果報告の更新に関する入力については、平成25年度10月から完全実施(登録6ヶ月前までに受講・入力の事)。

平成25年4月までに入力(来年の9月に有効期限の方は来年4月までが期限)。山岳は10月からだが、他のスポーツは既に4月から開始している。

一定の条件を満たした場合、都道府県山岳連盟(協会)で入力が可能。アカウントは有効期限1年(毎年、申請が必要)。

研修会予定の登録は3時間以上。平成24年度の9月までの申請は日山協で入力、登録は都道府県。8月くらいからアカウントを発行するので、10月からは各都道府県で入力。平成24年10月で切り分ける

### 2. アカウント発行について

正式な書類として各山岳連盟(協会)の申請によるものになります。

6月11日から7月31日までに日山協指導委員会宛に申請(郵送)。

2名での申請の場合、申請書は2枚必要(署名、捺印)。変更はアカウントを廃止して、再度申請することになる。

ウイルスソフトは確実に入れること(PC環境の説明)。

## 研 修

『スポーツ店員から見た最近の山ガールの動向』について上村絵美講師(カモシカ横浜店勤務、都岳連 climbing club Zoo会員)から講演していただいた。

## 指導委員総会(6月10日)

議事次第に基づき以下の議案について報告があった。

- (1)平成23年度指導委員会事業報告について
- (2)平成24年度指導委員会事業計画について
- (3)平成24年度指導委員会が実施する義務研修会について
- (4)登攀研修会および主任検定員養成講習会について  
平成24年度開催県(三重)の確認と平成25年度の開催県の選定として栃木県を提案。
- (5)S C指導員養成講習会について
- (6)規約・規定集の改訂について
- (7)A C上級指導員検定基準の改訂について
- (8)S C指導員検定基準(平成24年度版)改訂について
- (9)日体協・スポーツ指導者オフィシャルブック改訂について  
S Cにコーチを追加、来年度以降に養成講習会実施予定。
- (10)主任検定員(A級、B級)について
- (11)平成24年度の日体協公認スポーツ指導者等表彰の候補者推薦について  
北村憲彦(愛知)、加藤正之(三重)、山本一夫(大阪)の3名を推薦。

## ブロック別意見交換会

総会終了後「S CおよびA Cの指導者養成」をテーマにブロック別の意見交換を行った。

(文責 指導常任委員 野村善弥)

# UAAA 理事会報告

出席者 神崎忠男会長、田中文男顧問、小野寺齊  
日 程 2012年6月20日(水)～6月25日(月)  
※会議は6月22日(金)  
場 所 イラン国北部に位置する都市タブリーズ  
主 管 イラン山岳・スポーツクライミング連  
盟IMSCF (Iran Mountaineering & Sport  
Climbing Federation)

## 1. 事前処理

前年度の行動報告とのもので、事前レポート提出依頼があり、Wordで作成して以下の国に送っておいた。

- 1 Expedition 遠征 ネパール
- 2 Environment 環境・自然保護 イラン
- 3 Youth 青少年 中国

前述の様に上記とは別にPPT作成のJMA報告書を別途用意する。

## 2. 参加国

日本(JMA、労山)の他、会長国である韓国(KAF)、中国(CMA)、香港(HKMU)、台湾健行登山会(CTMA)、台湾登山協会(CTAA)、パキスタン(ACP)、ネパール(NMA)、イラン(IMSCF)の合計8カ国、10団体、22+イランのスタッフ

## 3. イラン国について

The Islamic Republic of IRAN イランイスラム共和国というのが正式名称となる。山はテヘランの北東66kmに位置するダマーヴァンド山が最高峰で5,610m、中東の最高峰でもある。

## 4. 理事会開催

### 4-1. 開催に当たって

10時から開始、始めにコーランの曲が流れる。そして歓迎の挨拶。"In the name of God"、神の名においてから始まる。会長Shoaei氏がようこそイランへ、IMSCFがホストして喜んで歓迎します、と挨拶。

次いで田中前会長の奥様と今春エベレストで亡くなった方々のために黙祷した。

UAAA会長である韓国の李氏は、長旅でまた時差でお疲れでしょう。UAAAがよい方向にいくようにベストを尽くします。UAAA創立に尽力された神崎さん、そして田中さんにもご出席頂き、又イランのShoaei氏とFahimi氏にはよくオーガナイズして頂き感謝します、と挨拶。

続いて司会のChristine Kyungmee Pae女史による定数確認と参加者紹介、アジェンダの変更と承認、昨年の議事録の確認があった。

### 4-2. 各団体の昨年の活動報告

JMA小野寺がPPTを使用して国際・国内の活動状況を発表した。労山からは福島原発の放射能が登山エリアに及ぼす影響について発表された。

IMSCFからは配布文書に沿って遠征、スポーツクライミング(SC)、トレーニングなどと特に女子のSCの大会等の模様がDVD発表された。

KAFも口頭発表があった。

NMAは各国から遠征報告を受け取る立場にあるが、JMAのみが報告書をくれた。ネパールは2010年に比べ2011年は登山隊の数が増えた。7000m峰以下の山ではNMAが登山隊に協力していきたい。

ACPでは冬の遠征隊が5隊あった。6000m峰以上のデータ提供についてはJMAとイランのみ。他の国も出してほしい。

CMAではYouthに力を入れたい、ネパール、パキスタンなどとの国境の山についてのアクセスは南側がよいので中国も整備したい。JMA、KAFとの合同研修には感謝したい。中国登山の高コストは翻意ではない。連絡くれればサポートするとのこと。

### 4-3. Joint Expedition (合同遠征) について

担当はNMA、11月に行いたい。安い費用で安全に配慮して、期間は10日～14日間程度。6000m峰或いはそれ以下の高さを考えている。若い人を中心にしたい。希望の山があればNMAにメールほしい。

10月末までに(総会までに)決めたい。

### 4-4. 今年のエベレストにおける遭難について

NMAからの報告。6人死んだ。UIAAからも報告が上がっている。商業登山と普通の登山隊が混在しており、登り方に変化が起きている。天候が悪化しても人が多くて簡単に下れない。Alpine value、Adventure valueとは何? 自然、山に対しての尊厳とは? シェルパは8000mライン、時間の要素、天候などを考えて行動する。幾ら線引きしても問題は残る。技術的或いは混み具合など課題は多い。何か示唆がほしい。李会長の提案としてクライマーは責任を負うべきである。NMAからUAAAのメッセージをツーリストに送ったらどうか、しかしそれもツーリ

ズムの観点からはどうか、おかしな解決方法である (strange resolution) などなど結局妙案は出ず。

#### 4-5. 会計報告とメンバーシップ

(1)最初に今年の主管団体 I M S C F に対して李会長から \$ 1,000 補助を表明。次にモンゴルについて。モンゴルには 2 つの団体、M N M F と M C M A A がある。元々前者は U A A A 加盟、後者は U I A A 加盟とのことであった。どちらがモンゴルを代表しているのかもあがあるが、とにかく U A A A には支払いがされていない、と報告。歴史的経緯があるが、ただ、レターを出して払って下さいというのではなく、我々の立場を強く、ポリシーを持って行くべき、という意見が出た。U I A A は取り立てが厳しいが U A A A は soft body であるとも。次の総会で結論を出すべきとなる。脱退してほしいということも視野に入れて考えるべきとの意見が大勢を占めた。さて、他の団体はどうかと言うとマレーシア、タイ、シンガポールなども収めていない。これらは S C が主体になって来ているのではないかと、だから U A A A に興味を示さないではないかとも。事務局から段階を追ってレターを出し、最終的には脱退を勧告にするとのことと一致する。

(2)会費についての議論は別項目の後も続き U A A A の創立経緯に詳しい J M A の神崎会長が次の提案。U I A A に比べ U A A A は格段に安い、そろそろ U A A A 会費の額が適当かどうか考える時期に来ている。U I A A の会費が妥当かどうかも含めて (1 国で安くしてほしいというのではなくアジア全体の意見として U I A A 会議で提案したらどうか)、U A A A の会費、今は理事国 \$ 500、非理事国 \$ 300 であるが、どんな額が妥当か皆で考えたい。口には出していないが (本心は U A A A の現行の額は安いと思っている)。

#### 4-6. U A A A の Website について

昨年にも議題に出たが、www.uaaa.or.org として構築中とのこと。新しく出来たら、可能なら 1994 年以降のドキュメントを載せたい。Vision を載せたい、アジアを見てほしいとアピールしたい。そのようにすれば存在価値も上がるし、情報開示にもなる。

戦略プランの一環として web を利用し、総会や理事会で決まったことの実行、財政強化を行いボランティアで行っている事務局費用の負担、会議参加者への参加費用の負担など考えたい。U A A A 継続のために会長が変わっても mission を持って存在を強化したい。

#### ◆会議終了後◆

#### 4-7. 次回の 2012 総会の準備

本年 10 月の 18 ~ 20 日に韓国の木浦 (M o k p o) で開催する、20 日、21 日は同じく木浦で S C のワールドカップ大会が開催される。同じく 11 日 ~ 13 日は U I A A の総会がアムステルダムで開催される。

ここで李会長がメッセージを読み上げた。U I A A は排他的で予算のトラブルもある、言語も 3 つの地域に分かれ、多岐に渡っている。昨年は Mike Mortimer 前会長のことで揺れたが、Jordi 会長代行の支持も未だまとまってなく、多くのメールが飛び回っている。また、M C 委員会も協調が易しくない。など。

#### 4-8. U A A A 創立 20 周年記念総会

この時の会場は日本に決まっているが、神崎会長曰く、10 周年記念の時の様に突然に費用が発生するようなことはしたくない。予算作成等事前準備をキチンと行いたい。また、同年の理事会の場所もまだ決まっておらず香港開催を提案したい。香港は少し渋ったが結局同意した。

#### 4-9. H A T - A s i a

パキスタンからの発言で 昨年神崎会長から創設についてレターが送られてくるはずだったが、まだ来ないとのこと。返答として「近いうち、2 ~ 3 ヶ月以内に出す」と神崎会長は返事した。また、クリーンハイクについて、昨年の総会で 6 月一週の土曜日と言ったが、そうではなく 9 月一週の土曜日だった、と訂正した。

最後に、李会長がエベレストの事故は不幸であった。みなさん有難う。I M S C F のみなさんお世話になりました、と挨拶して閉会となった。

(記 小野寺 齊)



## 第45回 Mountain World

### 時代はトラバース—その2

池田常道

ナンガ・パルバット（8126m）ほどドラマに彩られた山はない。1895年にママリーが果敢な試登で命を落とし、1932年から39年のドイツ隊は隊員9名シェルパ17名の犠牲を生んだ。53年の初登頂はヘルマン・プールの単独攻撃によって果たされた。62年にトニー・キンスホーファーらが西壁を初登攀。70年にはメスナー兄弟が南南東側稜を初登攀してディアミール側へ下降。78年にはラインホルト・メスナーが西壁から単独初登頂。85年イェジ・ククチからは南東側稜を初登攀。そして2005年スティーブ・ハウスとヴィンス・アンダーソンの南壁アルパイン・スタイル……。

ラクオト谷、ディアミール谷、ルパール谷と、各方面から10本近いルートが登られたこの山にも空白の一角があった。それは、南西稜が西へ10km以上も延びてディアミール谷とルパール谷を分ける山稜、マゼノ・リッジだ。5377mのマゼノ・パスから13kmの間に8つの頂を連ね、そのうち6座が7000m以上という山稜は8000m峰の頂に至るルートとしていかにも不経済で、長らく未踏のまま残されてきた。ナンガ・パルバット南西稜と言えば、1976年にハンス・シェル隊（オーストリア）によって登られたルートを目指す、これはルパール側の側稜からマゼノ・コル（6940m）で稜線に出てディアミール壁上部をたどるもの。マゼノ・リッジの部分は完全に迂回している。

この山稜を初めて登ろうとしたのは79年フランス隊のルイ・オドゥベールとその仲間たちだった。しかし、この大物は当時のアルパイン・スタイルには過大な目標で、山稜上の最初のピークであるマゼノI峰（6800m）に達しただけで諦めた。次はダグ・スコット（英）で、彼はさまざまにパートナーを替えて3回の挑戦を繰り返した末に、自らは攻撃に加われなかった95年のチーム（リック・アレン、ヴォイチェフ・クルティカ、アンドルー・ロック）がルート中間点のマゼノIII峰（約7000m）まで達した。そして2004年、チャラクサ氷河で登攀して高所に順応したスティーブ・スウェンソンとダグ・シャボの米国ペアが、マゼノVI峰（7120m）を含む3つの頂に初登頂してマゼ



マゼノ・リッジ遠望。左端のマゼノ・パスから右端の頂上まで10km以上も続く稜線は8000m峰では最長のルートである。

ノ・コルに達し、シェル・ルートに合流した。しかし、おりからの悪天候もあって頂上攻撃に移る余力はなく、シェル・ルートへの下降を選択せざるを得なかった。

今回この課題に挑んだのは南アフリカ女性でエヴェレスト登頂2回のキャシー・オダウドと英国のリック・アレン、サンディ・アラン。アランは92年のスコット隊、アレンは95年の試登に参加していた。3人のラクパ・シェルパ——ヌル、ランドウク、ザロックを伴ったトリオは6月中旬、ルパール側の4900mにBCを置いて入念な高所順応を繰り返した。8日間の食糧・燃料を携えて7月2日に攻撃に移った一行だったが、今季は積雪が多く、霧で視界が閉ざされる日もたびたびあって、予定通りには進めなかった。それでも9日後の11日にはマゼノ・コルに達し、さらに7200mまで進んで最後のビバーク地をしつらえた。翌日の攻撃は、しかしオダウドが途中で脱落、アレンとアランも頂上ピラミッドの下7950mで敗退した。いったんビバーク地に戻ったあと、オダウドは3人のシェルパに守られてシェル・ルートを下降、アレンとアランがもう一度攻撃することになった。

2日間休養をとった2人は15日に攻撃を再開、その日のうちに頂上を陥れ、ディアミール側の通常ルートへと下降した。09年にこのルートを登っていた2人にとっては、こちらのほうが合理的な選択だった。ただ、今季はまだディアミール側から頂上に立った者はなく、ルートが整備されていたわけではなかった。乏しい装備で攻撃を敢行した2人は雪洞ビバークを繰り返し、19日昼になってBCまで帰りついた。オダウドとシェルパたちも途中ルートを失ったものの、無事ルパール側BCに生還した。技術的に困難な壁を登ることも価値ある挑戦にちがいないが、高山のあらゆる条件を克服してゴールに至る縦走は、アルパイン・クライミングに新たな地平を切り拓くものだと言えよう。



西日本最高峰の石鎚山は、四国山地の西部、愛媛県西条市と久万高原町の境界に位置する標高1,892mの山である。石鎚山は、山岳信仰の霊山として知られ、日本百名山、日本百景、日本七大霊山のひとつとして、今も全国の山愛好家が多数訪れている。山頂からは、瓶ヶ森(1,896m)、二ノ森(1,929m)等石鎚山系の全容を望むことができる。

山岳切手の図柄は、石鎚神社山頂社のある弥山(みせん、1,974m)から見た、紅葉が美しい最高峰の天狗岳(1,982m)ですが、この裏に隠れている南尖峰(なんせんぼう、1,982m)と合わせて、総体を石鎚山と呼んでいます。なお、三角点は石鎚山には設置されておらず、弥山の北西にあるピーク(1920.6m)に三等三角点「石鎚山」が設置されている。神社の敷地内ということで、設置を避けたと思われる。

弥山から天狗岳までは約200mであるが、修験場を思わせる岩場が続き、危険箇所も多い。また、尾根の北面(図柄の左側)は200m程度のオーバーハンクした岩壁となっており、四国最大のロッククライミングフィールドとして、多くの四国のクライマーを育てているメッカである。

石鎚山の山岳信仰の歴史は古く、奈良時代の修験道の開祖・役行者の開山と伝えられており、今も登山道

には成就社、山頂社、遥拝殿、鎖等が設置されている。また、毎年7月1日から10日までの間には「お山開き」の神事が執り行われ、多くの信者、登山者が弥山目指して訪れる。かつてお山開き期間中は女人禁制とされてきたが、現在では初日のみ女人禁制となっており、女性は山頂には立つことができない。

石鎚山に直接登るルートは、主に次の3コースがあります。まず、西条市西之川から石鎚登山ロープウェイを利用して、石鎚神社成就社を經由して登る、表参道コースです。つぎに、久万高原町関門から1970年に開通した石鎚スカイラインを利用して、土小屋(標高1,492m<いよのくに>)から登る土小屋コースです。最後に、同じく関門からスカイラインを利用せず、古来の登山道を利用し、面河溪谷を右手に眺めながら登る、1番きつい裏参道コースです。また、弥山までには3か所の鎖場があり、下から「一の鎖」(33m)、「二の鎖」(65m)、「三の鎖」(67m)がありますが、どれも迂回路が用意されています。どのコースもブナ、ナラ、カシ、シコクシラベ等の原生林が多く見られ、尾根筋の岩場にはアケボノツツジが咲いており変化に富んだ山歩きを楽しむことができます。

愛媛県山岳連盟は、愛媛県、市町村、自然保護団体等関係者と協力して「石鎚山クリーンアップ推進連絡会」を組織し、現在石鎚山のトイレ問題に取り組んでいるところです。

(愛媛県山岳連盟会長 峯本典寛)

## 自然保護常任委員研修報告

自然保護委員会では、6月23日～24日の2日間、湯の丸高原・浅間高原にて研修会を行い、自然保護常任委員及び、関東地区(群馬・栃木・埼玉・東京・神奈川の各岳連)の自然保護委員を含め24名が参加した。

第1日目には、湯の丸高原を巡見のあと、上信越国立公園・鹿沢インフォメーションセンターにて、講師にNPO浅間山麓国際自然学校代表理事・橋詰元良氏を招き、「風景地保護協定」を主題にレクチャーを開催。

第2日目には、浅間山での自然巡見を行った。

この研修会の主テーマは「風景地保護協定」であるが、山岳団体自然環境連絡会(5団体)で行った尾瀬国立公園の自然環境・生態系保全を継続的・安定的に



湯の丸山の山頂にて

行うための意見書を環境大臣に提出し尾瀬の管理問題の中で、一部の報道に取り上げられた「風景地保護協



レクチャーを聴講する参加者

定)について、実情を見聞した。このレクチャーでは、2時間にわたって熱心に耳を傾けた。

以下にレクチャーの要旨を述べる。

「風景地保護協定」は自然公園法の第6節に規定されており、自然公園地域の権利者(地主・使用者など)と協定を結び当該土地の区域内の自然の風景地の管理を行うことができる様にするもので、国立公園にあっては環境大臣がこれを認可するとしている。第三者的な管理者(民活)によって、自然公園の管理を行おうとするもの。

上信越高原国立公園浅間地域において、公園管理団体のNPO法人浅間山麓国際自然学校から、土地所有者に代わり区域内の自然の風景地の管理を行うことができる「風景地保護協定」の認可の申請があり、平成

23年11月15日付けで「湯の丸高原風景地保護協定」《約120ヘクタール》が認可された。平成16年に阿蘇くじゅう国立公園における「下荻の草風景地保護協定」の認可に続き、7年ぶり2例目の「風景地保護協定」の認可となる。

この協定の阿蘇くじゅうの例とは異なる特徴は次の2点：

- 1) 個人対個人(法人)の協定。
- 2) 協定地域内の自然環境保全活動を主目的とする

湯の丸高原では、標高1,500m～1,800mに広がる牧畜業により形成された2次草原であり、国指定天然記念物であるレンゲツツジの大群生があるほか、牧畜業と自然が織りなした特異な植生が形成されており、希少な高山蝶や鳥類、ほ乳類が生息している。現在、複数の保護団体により、ズミ、カラマツなどレンゲツツジの生育上支障となる樹木の伐採や整枝などレンゲツツジを保全対象とする活動が行われている。しかし、各団体間の連携が不十分なことにより、保全活動区域の偏りや団体間による樹木の伐採・整枝方法の不統一がみられることから、各団体の連携による適正なかつ生物多様性に配慮した保全活動の推進が求められているなか、浅間山麓国際自然学校の統括、指導のもと、協定の有効期間20年間にわたり、保全活動が行われることとなる。

(自然保護常任委員 松隈 豊)

## 「資源回収でつなぐ日本百名山めぐりプロジェクト」を後援《報告》

日本山岳協会では、日本コカ・コーラとNPO法人グリーンバードのコラボレーションによる「資源回収でつなぐ日本百名山めぐりプロジェクト」を後援している。

5月19日(土)に開催された第1回活動となる筑波山でのクリーンハイキングでは、自然保護委員3名と茨城県山岳連盟から2名が同行し、活動の支援をした。

抽選で選ばれた一般参加の約30名(20～30代の若者がほとんど)が、新宿東口に集まり、チャータバスにて、筑波神社口へ向かった。神社口で開会式のあと、2チームに分かれ、梅園コースと旧弁慶茶屋経由コースから頂上へ向かった。

好天に恵まれた1日、日山協メンバーからの筑波山の歴史や自然解説などに耳を傾けながら、登山口から山頂までの登山道を歩き、5時間かけて空き缶や空き瓶など5キロを回収した。ゴミ回収量は少量ではあっ

たが、登山途中では自然解説など情報発信を行った。帰路のバスのなかでは、参加者から「清掃活動を通じて多くの人と交流でき、楽しかった」などの声が上がったのが印象的であった。

このプロジェクトは、今後5年間継続していく計画となっており、活動の支援に当たっては各都道府県山岳連盟(協会)のご協力をお願いする次第です。



**日時** 平成24年7月12日(木)  
17:30～20:50

**場所** 岸記念体育会館103会議室

**出席者** 神崎会長、内藤副会長、國松副会長、八木原副会長、松元副会長、尾形専務理事、西内、仙石、佐藤、石倉、高山、水島、北山、谷口、永井、堀井各常務理事

**委任** 相良、寺内常務理事  
(18名中16名出席)

### 1. 専門委員会動静

6月常務理事会以降  
(6月15日～7月12日)

#### [報告]

- (1)自然保護委員会  
6月19日(火) 出席者14名  
ア 新常任委員の件(千葉・濱田氏)  
イ 5月常任委員会議事録の確認  
ウ 平成24年度理事会・通常総会報告  
エ 2012国際山岳年プラス10シンポジウムについて  
オ 尾瀬管理費問題に係る自然公園課長との懇談会報告  
カ 東北・関東の山の放射線測定と分析結果の講演会報告(5/17、労山)  
キ コカ・コーラ、クリーンハイクについて

- ・石鎚山：愛媛岳連のサポートで6/9～10にロケハン実施
- ・富士山：8月中旬計画
- ・赤城山、雲取山：検討中
- ク 「山はみんなの宝」憲章への賛同について
- ケ 常任委員会の体制について  
・三ツ木、浅見、山口氏の退任
- コ 自然保護委員総会(北海道大会)について
- サ 常任委員研修会の計画について
- シ 自然保護指導員の今後について  
・グリーンカード、腕章の刷新(公益社団法人移行に際して)
- (2)競技委員会  
6月21日(木) 出席者16名  
ア 6月常務理事会報告  
イ 第26回リード・ジャパンカップ大会の報告  
・反省を基に検討中  
ウ 2012WC印西大会の進捗状況について  
・第2回実行委員会(7/3、印西市総合体育館)実施予定  
エ 国体競技運営委員会の報告(6/20)  
オ 後催の準備状況について  
カ りんご清流国体リハーサル大会の反省及び今後の対応について  
・運営全般の反省

- ・総務部、競技部、輸送宿泊部、医療関係の反省
- ・実施本部、中央総務の反省
- ・リード競技全般の反省
- ・ボルダリング競技全般の反省
- キ りんご清流国体実施要領の記載事項の確認について
- ク 競技施設等に関する申請、審査、認定について  
・規則集に則った諸手続きの見直し
- (3)ジュニア・普及委員会  
6月21日(木) 出席者8名  
ア 中高年安全登山指導者講習会について
- イ 個人会員、ジュニア関係アンケート調査発送について
- ウ ジュニア登山教室 in 立山について
- エ 25年度全日本登山体育大会について  
・11月8日(金)～10日(日)、筑波山、男体山、竜神橋、袋田の滝ほか  
・県北ジオパーク、一般参加者の講演参加検討
- オ 少年少女登山教室の記念バッジをカンバッジに変更
- (4)広報委員会  
6月21日(木) 出席者8名  
ア 『登山月報』7月号の編集について  
・第3回アジアビーチゲームズ大会  
・第26回リード・ジャパンカップ大会

## 平成24年度中高年安全登山指導者講習会 「西部地区」参加者募集中!

近畿ブロック以西を対象とする「西部地区」の標記講習会を以下の通り開催します。

**期日** 平成24年10月12日(金)～14日(日)

**開催地** 皿ヶ嶺山系(愛媛県東温市、久万高原町)

**宿泊所** 道後にぎたつ会館(公立学校共済組合)  
松山市道後姫塚118-28 電話:089-941-3939

**定員** 50名程度

**参加費** 20,000円(宿泊、食費、バス代他)

**申込み締め切り**: 9月7日(金)

**申込み・問い合わせ**: 日山協事務局まで

<http://www.jma-sangaku.or.jp/>  
TEL:03-3481-2396

2012年～2013年のNZトレッキングシーズンが到来します。

**ミルフォード・トラックとマウントクック11日間**

**発着地** 東京(大阪発着はお問い合わせください)

**出発日** 11/21(水)・12/9(日)・1/20(日)  
2/10(日)・3/10(日)

**旅行代金** ¥542,000～¥580,000 8月31日までのご予約は2万円割引!

※燃油サーチャージ(2012年6月20日現在:目安約52,000円)が別途必要です。  
(NZの自然を楽しむ各トレッキングコースについてはお問い合わせください。)

観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 ©ポンド保証会員

**ALPINE TOUR SERVICE 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911  
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557  
e-mail: info@alpine-tour.com <http://www.alpine-tour.com>

# あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

## 救助費用はタダではありません。

### ■平成22年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成23年6月10日)

発生件数 **1,942** 件 (前年対比 266 件増)

遭難者数 **2,396** 人 (前年対比 311 人増)

死者・行方不明者 **294** 人 (前年対比 23 人減)

詳しくは → [www.jma-sangaku.or.jp](http://www.jma-sangaku.or.jp)

お問い合わせは

**日本山岳協会山岳共済会**

事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター  
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707

TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397

E-mail: [sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp](mailto:sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp)

- ・指導委員総会・研修会報告
- ・遭難対策委員総会・研修会報告
- ・国際委員総会・海外登山遭難対策研究会報告
- ・2012国際山岳年プラス10シンポジウム
- ・日本の山岳切手シリーズ⑨
- ・お国自慢の山⑦
- ・Mountain World
- ・JMA
- (5)医科学委員会  
6月22日(金) 出席者10名
- ア 24年度通常総会の報告
- イ 23年度日体協スポーツドクター代表者協議会報告
- ウ UIAA医事部会(7/18、カナダ)出席について
- エ 医科学委員会の活動について
- オ 常任委員の増員について
- カ UIAA医事部会への連絡員交代について
- (6)指導委員会  
7月2日(月) 出席者9名
- ア 6月常任委員会議事録の確認
- イ B級主任検定員の認定報告

- ウ 指導員総会の報告
- エ 平成24年度指導常任委員について
- オ 公認スポーツ指導員の資格再登録について
- カ SC指導員養成講習会について
- キ 公認スポーツ指導員リストの作成について
- ク 常任委員研修会について(9/1～2、丹沢)
- ケ SC講師養成・SC主任検定員養成講習会について(9/1～2、丹沢)
- (7)国際委員会  
7月10日(火) 出席者10名
- ア 委員総会及び海外登山遭難対策研究会の反省
- イ 第51回海外登山技術研究会について
- ウ 24年度国際委常任委員について
- エ UAA理事会報告

**2.その他の重要事項**  
(6月15日～7月11日)  
[報告]

- (1)第3回アジアビーチゲームズ  
6月15日(金)～21日(木)  
於：中国・海陽  
北山常務理事ほか8名
- (2)日本ワールドゲームズ協会第15回総会・懇親会 6月18日(月)  
於：アークヒルズクラブ  
尾形専務理事
- (3)平成24年度第1回国体競技運営部会 6月20日(木) 於：岸記念体育会館504,505号会議室  
高山常務理事
- (4)UAA理事会  
6月20日(木)～25日(月)  
於：イラン・タブリーズ  
田中顧問、神崎会長、小野寺事務局員
- (5)ISMF総会  
6月22日(金)～24日(日)  
於：イタリア・トリノ  
笹生常任委員
- (6)日本スポーツ少年団創設50周年記念式典 6月23日(土)  
於：品川プリンスホテル アネックスタワー 尾形専務理事

## 寄贈図書

雑誌	東京新聞社	『岳人』No.782 8月号
	山と溪谷社	『山と溪谷』No.928 8月号
	(財)日本健康スポーツ連盟	『健康スポーツ情報』第2号
	福岡山の会	『せふり』No.351
	新潟県山岳連盟	『新山協ニュース』第297号
	(公財)体力づくり事業財団	『健康づくり』No.411
	兵庫県山岳連盟	『兵庫山岳』第541号
	中華民国山岳協会	『中華山岳』229
	FEEC	『Vertex』242
	(公財)日本体育協会	『SPORTS FOR ALL 2012 平成23年度事業概要』
会報	大阪府立体育会館	季刊『府立体育会館』No.101号
	(一財)日本万歩クラブ	『帰れ自然へ アルク』2012 8・9
	(独)日本スポーツ振興センター	『国立競技場』Vol.592
	日本体育協会	『スポーツニュース・フェアプレイニュース』2012年7月2日号
	(独)日本スポーツ振興センター	『登山研修』Vol.27
	(一財)自然公園財団	公益信託自然保護ボランティアファンド通信『Part Voleantears』
	(株)スクールパートナーズ	『高校生新聞・高校生スポーツ新聞』第198号・インターハイ特集号
	(公財)全日本ボウリング協会	『JBCニュース』第488号
	大阪府山岳聯盟	『山岳おおさか』No.193
	横浜山岳会	『山』961号 7月号
	大韓山岳聯盟	『大山聯』Vol.163
	日本勤労者山岳連盟	『登山時報』2012.8月 No.450
	長野県庁 スポーツ課	夏山情報
	(公財)全国高等学校体育連盟	『全国高体連ジャーナル』第23号
	国土緑化推進機構	『グリーンモア』第58号 夏号
	東京野歩路会	『山嶺』Vol.89 No.989
	日本山岳写真協会	『日本山岳写真協会ニュース』7月号
	(公社)日本山岳会	『山』7月号 No.806
横浜山岳会	『山』962号	

- (7)国際委員総会・海外登山遭難対策研究会 6月23日(土)～24日(日)  
於：神奈川県箱根保養所  
八木原副会長、佐藤常務理事
- (8)遭難対策委員研修会・総会 6月23日(土)～24日(日)  
於：茨城・ホテルレイクサイドつくば 西内常務理事
- (9)2012国際山岳年プラス10シンポジウム 6月23日(土)～24日(日)  
於：日本大学文理学部  
尾形専務理事
- (10)自然保護常任委員研修会 6月23日(土)～24日(日)  
於：湯の丸高原  
松隈常任委員ほか
- (11)JOCマーケティングプログラム説明会 6月25日(月)  
於：岸記念体育会館  
尾形専務理事
- (12)オリンピック競技大会参加100周年記念の集い 6月26日(火)  
於：味の素トレセン  
尾形専務理事
- (13)駐日ネパール大使晩餐会 6月26日(火)  
於：ネパール大使公邸  
尾形専務理事
- (14)日体協夏季節電対策説明会 6月26日(火)  
於：岸記念体育会館  
尾形専務理事
- (15)日体協評議員会 6月28日(木)  
於：グランドプリンスホテル新高輪 内藤副会長
- (16)「山の日」制定協議会 6月28日(木)  
於：日本山岳ガイド協会  
尾形専務理事

- (17)日本山岳レスキュー協議会講習会 6月28日(木) 於：労山事務所  
西内常務理事
- (18)WC印西大会実行委員会 7月3日(火) 於：印西市  
北山、高山常務理事、中川事務局員
- (19)2020年オリンピック・パラリンピック招致に向けた競技団体連絡会 7月6日(金) 於：都庁第一本庁舎  
5F大会議室レセプションホール  
尾形専務理事
- (20)Mammut Sports Group Japan, Inc 設立5周年記念レセプション 7月8日(日)～9日(月)  
於：八ヶ岳ロイヤルホテル  
尾形専務理事、北山常務理事
- (21)アジアユース選手権大会 7月9日(月)～11日(水)  
於：イラン  
安井博志監督ほか4選手
- (22)山岳団体自然環境連絡会(6団体) 7月10日(火) 於：労山事務所  
石倉常務理事、松隈、徳永常任委員
- (23)平成24年度全国山岳遭難対策協議会 7月11日(水)  
於：文部科学省講堂  
神崎会長、尾形専務理事、西内常務理事、中川事務局員
- (24)国体活性化プロジェクト中間報告に関する説明会 7月12日(木)  
於：TKP渋谷カンファレンスセンター 寺内常務理事

**3.議事**

- (1)平成24年度6月常務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)平成24年度専門委員会常任委員について(一部加筆訂正で承認)
- (3)山岳遭難・搜索保険の自動継続制

- 度導入について(継続審議)
- (4)報告事項  
ア 会計月次報告  
イ U A A A 理事会報告  
ウ 自然公園指導員被表彰者の決定について  
エ 平成24年度中高年安全登山指導者講習会(東部地区)の実施要項について  
オ WC 2012印西大会について  
カ 山岳共済会の優待施設について  
キ レスキュー講習会(東部地区)の開催について  
ク 24年度全国山岳遭難対策協議会報告  
ケ SC主任検定員養成講習会の開催について

**4.後援、協賛等の依頼について**

- (1)「マナー&クリーンアップ・チャレンジ2012 in 尾瀬」の後援名義について(承認)
- (2)「山岳・辺境文化セミナー2012」の後援名義について(承認)

**編集後記**

7月22日～23日市民登山の引率で富士山に行ってきた。吉田5合目の登山口に、H A T - J 代表の田部井淳子さんがいた。東北復興支援企画「東北の高校生を日本一の富士山へ」登山隊の、下山を出迎えるため待っているとのこと。時折小雨の降る道中「H A T - J」マークを着た下山中の登山者と出合った。参加者とサポーターであろう。疲れた動作だが表情に輝きがあり満足そうであった。全員登頂出来た様で、登山が感動と元気を与えてくれるものだ実感した。  
(広報担当 水島彰治)

NPO法人 **北丹沢山岳センター**  
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp  
 蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)  
 神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276  
 和田「時の茶屋」TEL:042-687-2882  
 理事長・代表 **杉本憲昭**

NPO法人 **北丹沢山岳センター**  
 事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
 TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
 E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp  
 ○ 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会  
 ○ 陣馬山トレイルレース実行委員会  
 ○ 上野原トレイルレース実行委員会  
 ○ 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会  
 大会々長 **杉本憲昭**

**登山月報 第521号**  
 定価 100円(送料別)  
 予約年間1,200円送料共  
 昭和45年12月12日  
 第三種郵便物認可  
 (毎月1回15日発行)  
 発行日 平成24年8月15日  
 発行者 東京都渋谷区神南1の1の1  
 岸記念体育会館内  
 社団法人日本山岳協会  
 電話 03-3481-2396  
 F A X 03-3481-2395